

学習課題(小学校6年生)

【社会】



<学習内容>教科書歴史編「町人の文化と新しい学問」

◆江戸時代後半の文化や新しい学問について取組シートやノートにまとめよう。

(1) 江戸や大阪のまちの様子について、教科書90～91ページを参考に調べて、下の（ ）に言葉を書き入れましょう。

- ・江戸には、各藩のやしきが置かれ、武士や町人などで人口が(①)万人にもなった。
- ・江戸の両国橋は、(②)川にかかる橋で、たくさんの人でにぎわっていた。
- ・江戸や大阪のまちでは、商業が発達し、武士以外の人々の中にも、(④)や(⑤)に親しむ人が現れるようになった。
- ・大阪は、(⑥)として全国から産物を集めた。

(2) 江戸時代の中ごろから、歌舞伎 かぶき ことば(p91) や 浮世絵 うきよえ ことば(p93) が人々にとっての大きな楽しみとなりました。歌舞伎と浮世絵について、教科書92～93ページを参考に調べ、下の表にまとめよう。

【歌舞伎・人形浄瑠璃】

(①)の作品は、力をつけてきた(②)のいきいきとしたすがたや義理人情をえがき、人々に親しまれた。

力をつけた
町人の
文化が栄える

【浮世絵】

(③)の作品である「東海道五十三次 とうかいどうごじゅうさんじ」は、大量に印刷され、江戸からふるさとへのみやげとしても人気だった。

(3) ヨーロッパの新しい知識や学問がオランダを通じて伝わり、蘭学 らんがく ことば(p95)

と呼ばれ、西洋の学問を学ぶ人々が増えました。鎖国を続けていた日本にとって、蘭学は社会にどのようなえいきょうを与えたか、教科書94～95ページを参考に調べ、取組シートやノートに書いてみよう。

(4) 江戸時代後半、蘭学だけでなく、日本古来の考え方を研究する国学 こくがく ことば(p96)

も人々の間に広がりました。国学は、社会にどのようなえいきょうを与えましたか。教科書96～97ページを参考に調べ、取組シートやノートに書いてみよう。

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

- ・江戸時代後半、新しい学問や文化を生み出した多くの人物（近松門左衛門、歌川広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬など）が教科書に掲載されています。興味をもった人物について詳しく調べることで、歴史を学ぶ楽しさを味わうことができます。